別15
30.31

傳心抄　四冊
傳心集　一冊

傳心集

別15
30

ガラス使用

國立國會圖書館藏書

国立国会
25.3.31
図書館

U 6397

ガラス使用

国立国会図書館蔵書

三箇大事一

御賀玉木

就之儀區（マチマチ）也或云天子即位之時ハ笠山之

松枝長三寸許圍（マハリ）三寸ニ削テ其上ニ以朱書

御守懸サセ奉リ即位以後彼御守ニ桐副

給之寄移亦帝生氣ニ方埋之然義也云々

當流ニハ不然是ハ行野ノ物ニ鳥ヲ付テ置

鳥巣ト云物也是口傳也不免記

三ケ大事二

妻戸ノ削花

めどトハ妻戸ノ事也種々ノ花ヲ削テ挿ル

ガラス使用

广ニ梯（柿）也是口傳

又曰蓍（メト）草也

又云右近馬場ノハひをり日まつりの手継の

玉河し小さすむともいへり

三ケ大事 三

賀和嫁

あきは鏡なり或菱と云或ハ河縁

或ハ河藻或ハヨモクメカ芭ハ河骨ト云草也

口傳也哥ニふて究記

重大事口

重大事

御賀玉木 内侍所

妻戸削花 神璽

賀和嫁 寶剣

切紙ニ上口傳 五

八咫鏡（ヤタノカヾミ）

八坂瓊曲玉（ヤサカニノマガタマ）

草薙剱（クサナギノツルギ）

御賀玉木

鳥業ヲオカ玉ノ木ト云事鳥ヲシツクルト云故也

玉ハ魂ノ方ヘ取也其木ハ桃ニ天照太神ノ御魂ヲ

付タル心ヲ表スル義也置玉ト云ハモアリ畢竟

重大事ノ時ニ内侍所ト比スル也常之流ハ鳥居ヲ
用吉田流ハ神木ヲ用也

妻戸ノ様花

妻戸ニ結ヒノ花ヲ削リカクル此節ヱミし也
其花ハ二条后ニ比シ奉ル国母ニミシニス此大徳趣ニミ
畢竟重大事ニ付神璽ニ比スル也

加和名種

此草ヲ宝剣ニ比スル心ハ剣ハ水ヲ解トス河ゟ
清浄ヨリ此草出生スルニ比シタリ水ニモ溺（オボ）レス花咲也

重々口傳　極　六

重大事ノ口傳

此切紙ハ前ノ三ケノ子細ヲ明ス也但今前ノ切紙ハ
喩ヘ也三種ノ神器ヲ可顕〻義也

内侍所　正直

鏡ニテ座ス也真神中ニ含メリ鏡ノ本解ハ天虚ニメ
而モ能万象ヲ備ヘリメリ此理ヲノツカラ正直ナル物也
畢竟一切皆正直ヨリ起ル此義深キノ秘シ深クヘシ

神璽　慈悲

玉也陰陽和合メ玉ト成ル也神代ニ日神ト素戔嗚
尊ト此中遠々附玉ト剣トヲ取替給テ此中ナシ玉也

修事アリ是陰陽ノ表事也

寶劔　征伐

凡ソ劔ハ本水神也自水起劔ニテ陰ノ形也象ヲ以テ征伐ヲ根本トメ治ム天下也撫以衛家戸ハ門ヲ此陰形削泥ハ此陽一切皆所根本之地也畢竟皆三ノ宝ソ若モ一モ闕不可保天下所ノ正物右璽劔鏡ハ内ニ所知之右並悲ニ直賞罰而ニ三種神器也劉於モ忌ニ則恩招國家ニ滅モ是日神之内證也長上下ニ照ス神ニ一体ノ也不二差別

真諦之事七

真辨之事

夫神ト名字ヲ不取メ假ニ名ツケタリ實ニハ鏡ノ也天台ニ三諦即是ノ法文ニ配當セリ元来明前之元諦ナキ者也万象所稱是假諦也天地ノ二ニ不渡メ而モ二ツ備ヘ元鏡ノ神也是則中道ニ兼ス理也是ヲ皆集ノ両字ニ充ル時本来空明之神ヲ名トモ万象ノウツル所ヲ今トスニモ旅ハ日神ノ内證ハ鏡也神道ノ大事ニ鏡ハ日神ニ限ラス一切ノ神ニテ座ス也依之テ鏡ヲ中略ニテ神ト稱奉ル也諸神ノ本神鏡ナレハ稱真神事甚深者也

ガラス使用

釼事

神代ニハ八握釼九握十握ホノ釼アリ出雲国簸川
上ニテ大蛇ノ尾ヨリ取出ル釼ヲ天村雲ト名ク
（第十二代）景行天皇日本武尊東夷征伐ノ時没名（テツ）草薙
釼ト云此釼ハ熱田ニ被納ニ是ヲウツサレタル
釼ハ三種之内ノ宝釼也

璽事

璽ハ信也古百若早芸ニ
大事之深秘在口決
三鳥之大事ハ
三鳥之事

一喚子鳥　一説猿　一説若鳥　此鳥ハヤコヽト云ヤウニ
鳴故也又人ヲ云トモ云ヘリ春ノ山野ニ出テハ万葉
蔵風情見アツメテ物ウサニ哀シ呼フ札ニカリ云ト云リ
又筒鳥ト云アリ是ヲ家ノ口伝トス
一稲負鳥　家々諸々ノ説区々
口伝ニハタヽキト云也
一百千鳥　鶯ト云説
家々口伝鶯一ツニ限ラス諸々ノ鳥春ハ同シニ
囀ツルヲ百千鳥ト云也
此外猶有口決

鳥之釋 九

稲名負鳥

庭敲此鳥ノ風情ヲ見テ神代ニミトノマクハヒアリ是ニ依テ此名ヲ得タリ（秋ハ年中ノ裏ヘ行境也此季節ノ道ヲ慎ス而是常也仍入秋部）今上

喚子鳥

聞鳥ツヽトナキテ人ヲ呼ニ似タリ依之有此名（時節ヲ得テ人ニ告教ルヽヲ執政ニ譬フ帝ノ心ヲ性トシ時節ニ應スル下知ノ心也）関白

百千鳥

春ハ万ツノ鳥ノサヘツレハ百千鳥ト云仍テ此名アリ（万機扶翼（フヨク）ノ教令ヲ受テ百寮各ミノ事ヲ成スカ如ク春来テ百千ノ諸鳥囀ト云心也）臣

已上

鳥之口傳 十

三鳥之事

古今巻一春哥上　読人不知
をちこちのタツキモ知ヌ山中ニオホツカナクモ
ヨフコ鳥カ

一喚子鳥ト云ハ元初ノ一念ヲヨメル歌也其一念ト云ハ忽然念起名為無明ニ義也此無明トハ煩悩ノ不測（ハカラス）ニ所起ノ一念也喚子鳥トハ此一念ニヨリ出ナルハ一切ヲ云也山中トハ深ク人ニ知マキ事也人元来ノ所也實ハ文ニ云事遠近ト云フトノ分別ナリ測ラレヌ境界ヲシタメツキモ知ラストハイフリオホツカナクモトハ不測一念ノ浮出ス所ハ文ニ思（ニ）通ニカヽハラサル境（起）也

古今巻四　秋哥上　読人不知
ワカヽトニイナオホセ鳥ノ鳴ナヘニ
ケサ吹風ニカリハキニケリ

一稲名負鳥　喚子鳥ハ一念起ル初ヲイヘリ是胎藏シカタメナ十月ヲ経テ出生スル一切ヲ門トイヘリ

人ゝ開クル心也陰陽和合シテ太ヨリ一ニ口メタル所ヲ鳥トハ
ナスラ人ノタル心也書ニ鶏子ノ如シト云ハ也鳴大人ニトハコト
ワサノ始ニル事ナリ卵ハ男女陽陰ノ事也鳳ト
鶏トハ世界ノ気静ノ間ニ居ヘ円ニ定マル所ヲ云温顕
二ノ万陽ニ世ノ造作ナル心

古（イニシヘ）天地（アメツチ）未剖（イマタワカレ）陰陽不分（メヲワカレサル）混沌（マロカレタルコト）如鶏子（トリノコノコトシ）

百千鳥サヘツル春ハ物コトニアラタマレトモ我ソフリユク
孰之哥　読人不知　古今集一春之上

一百千鳥囀トハ万物ノ形気静ノ心ニアラタメニルトハ
立帰リテハ本ノヤウニ成クスル事也是法伝法従世間
相當伝ノ心ニ我ソフリ行トハ有待ノ身才ノ事也此身ハ
二度立返ル事ナリノ舊キ物也世界ハ我トラ物ナキ
時ハ常住也我ト云者ハ一切衰老ノ業アルニ依テ終ニ
衰老ノ欺キアル也語テハイツチ行ソナレハ元初ノ自性ニ
カヘル也此理能ニ心得ヘシ　禅ニハ空ヲ尚ノ沙汰無キ也
一蠢土
伝蠢云

蠢動含霊
蠢ハウコメクト読字也ソトモハホウツキナトノトロノ中ニスミテウコクノ心
春ノ心アリ陽気至テ虫ノウコクノ心

此虫ハ衆生蠢々ノ心也此我トラ物ハ空ヨリ大気温ヨリ
丸メテヨリ名ヲ起ニ名スカヘルニハ境ニ依テノ事ト云ハ
迷ノ心也境トラハ世界也之未境ニ静ハナキ物ナリ
一身不生ハ所法無辞トラ先也人ニ咎アルニ依テ
法度トラ事モ出来スル也サレハ只我カラト此我ト
ラ事衆生ノ上ノミニ非ス天地ニモアルヘシ清シハ
上テ天ト成モ天ノ我カラヽ地モ又同カルヘシ青黄
赤白黒モ各我柄ノ名也此居着ナル振舞アル

ガラス使用

事モナシソレモ我柄也アシキ振舞アルモ我カラ之
品取テ在シ根ニシトミセスモ又我柄也サレハ歌言
ノ道ニ帰ル所尤肝心也

出ニハ口伝　十二

一出之口伝

典得真字ハ作者ナリト口伝ス歌名ニ到テモ品
サトル心ニ歌言ハ先ズオロカナル所ヲシタテヽ先ツ品ニ
明ラムル心ニ直不直ハ只一心之意生シ善悪スル
心アル故ニ真字トテ仏ハ一切衆生ヲ一子ニ接渡ノ
ヨリテ之直ヘ持作者ノ誠心之一事一心ナルヘキ
事ヲ流スル言之
此歌此集ノ眼目ナレハ一万人歌

6397

哥シノ一字ヲ云也秘中ノ口伝也

三才之大事　十三

天地人ニ之秘事

一久堅ノ天ナテトハテヨリ上ノ事也下照姫ハ天稚彦
妻也天稚彦崩御之時喪屋ヲ天ニ作リテモカリス
下照姫ノセウト味耜高彦根神弔ラハントテ
天ニノホリケルニ其形麗シクメ二ノ丘二ノ谷ノ間ニ
照カヽヤクヲ見テ下照姫此事ヲ衆人（ツトヘル）ニ知ラシメン
トテ歌ヨミシテ曰ク
阿妹奈屢夜（アモナルヤ）（天ニ）乙登多奈婆多廼（シツトメナハタノ）（織セシ）汙奈餓勢屢（ウナカセル）（嬰し）

多磨廼彌素磨屡廼阿奈陀磨波夜彌多爾（タマノミスマルノアナタマハヤミタニ　玉之　御統之　玉之　早之　谷之）
輔柁和柁邏須（フタワタラス　渡之）

味耜高彦根返歌曰

阿磨佐箇屡（アマサカル　天降之）避奈菟謎廼（ヒナツメノ　夷　着）以和多邏素西渡（イワタラスセト　得　雉木渡之）
以嗣箇播箇柁輔智爾（イシカハカタフチニ　石川之　片淵之）阿彌播利和柁嗣（アミハリワタシ　網之　張之　渡之）妹慮豫嗣爾（メロヨシニ　目詞之　吉之）
豫嗣豫利據禰（ヨシヨリコネ　吉之　寄之　来之）以嗣箇播箇柁輔智（イシカハカタフチ　石川之　片淵之）

此哥ノ事也夷曲（ヒナブリ）トモウクト云々
一あらかねの地にしては素戔烏尊ノ出雲国ニ
宮作リノ詠ヲ云るハ八雲立ノ神詠ノ事也
一人乃世と成ては素戔烏尊ヨリ三十一字ノ歌ヲ用ニヨム
事也此以前ニテハコトハリ見ヘニクシ家ノ口傳
云他人ノ歌此分也

口傳

人ノ世ト成テト并素戔烏尊ノ所ヲ挙タルハ
猶口傳サセン為也依之三才ノ起ヲ云々
又極秘也　凡ソ俗人　久ク學之　此書絵甚深秘之
口決也

秘々哥

ほの〱れ歌事

此哥郁ニノ口傳ト稱メ十二〱ノ義ヲ擧テ記シ来

貫之ヵ言葉議評ニ及ス文此哥ハ云不及沙汰事

ニ井テ今義ヲ立ツ

文武天皇第一皇子高市ノ皇子十九歳ニメ世ヲ

早クシ給ヲ詠ル哥也云々死シハ皇子ノ崩スルニアツル也

浦トハ此世界ヲ滿テ行ニヨソヘタリ舟又物ヲ滿

ツル程アリ一説舟ヲ病ニアツルノ義アリ

嶋カクレハ崩ル義也　舟ハ皇子ニタトヘタリ

ほの〱と云ニ四ノ義アリ　明　若　壽　風　名也　此云ニハ名ノ字ヲ用也

明旦（あく）左傳　若（ほのく）深草未出春色若（ほのくらり）　奥義抄ニ出

壽　文選壽（ほのかに）作（ツクラ）三王致德道云々　風　文集風（ほのかに）吹（キノ）ー云々

切紙之上口傳

生老病死ノ四魔ト云事不用々嶋カクレハ八將ノ

外ヘユキ離ルヽト可心得則此歌ヲ云ノ心ニほの〱と

明石トツヽケテ明圓ヲ云ヘル而已明石ヲ言ヘ立リ議論ニ

入タル事甚深ノ妙処也人間ノアリサマヘツ井ニ祓モ本

覚ノ古ヘニ回スヘキノ理也　又云天大ノ歌ノ本源ニ

回リ法界ニ回ル心ほの〱と一氣生メヨリ二ツ根ヲ識ニ

果ヲ見メ　又本ニ回ルサカヒヲ浦トハ云ヘリ一天四海ヲ

学ニ力ヲ盡ス古人ノ位モ如此ナレハ一方人ノ一思ニあらす是也

櫻歌之口傳アリ

吉野山櫻事

萬葉ニナル歌見ヘス櫻者相メ不可猥之

こそ上對メ書之立田川ノ歌ハ有青山不富

二ヵ之事也當流ノ口傳

文武ニ至吉野山ニ如此詠ノ時分もありし之

人麿

白雲の文みよ信みしつるハこのしのゝ此櫻なりけり

又流

ちるハ雪ちらぬハやしとこそ申るからしのゝ山のもちのなれ

口傳云　是又別吾ヵ切紙ニ之略ヵ載之

吉野山櫻事只對メノ事也是深面白ゝ義也

次ニ為始勘之むかし元来之内裏義ノ哥

一用之

重之重付古歌事云

重之重

又曰

慈ニ謂与楽　シト云ハ楽ヲアタフ

悲ニ謂抜苦　ヒハ抜苦ヲヌク

身仁邪奈久　他仁慈乎与

口傳本歌ハ別ニ有之也

業ハ学テモ至ス及ヒ習テモ一所不足也深ク心脩ニ

深ヘキハ一事也此外ニ少シ立テ国ヲ治メ家ヲ

称フヘキ事アランヤ一身ハ歌ヲ離レテモ他ヲメクム心ナクハ道ヲ守好士ニハ非ナルヿ也上一人ヨリ下万人ニ至ルニテ此ハ一也

古歌ニ事（かきりは別帋切紙也今以表裁一章遣也）

伊津見志摩伊賀奉命名義路ニ結ヒ人手見給候ニ多加良歌作古ニ諸作ニ渡シ一議行（在之）

口傳（かきりは別帋也）

イツクシキ　君タル人ハ果行ニシテ可向人ノ為也此宝ト成シトハ五為ノ宝ハ当時ノ物也当年ノメクミ万人ノ肉ノ三タト治ル此時ノ万民万代不朽ノ宝也志ハカキリアラシトハ日月ニ懐ツク人民ノ心ハ一同ニ上ヲ敬ヒ恵ムトスル事日月ノ如キ也古今集ノ本意也

五代也

五代

奉授

今上皇帝

神南日孫

延寶三年五月二十日

和歌（依倫言 上撰花歌）

紀貫之上

口傳云古今ハ古今集ノ五事也古今歌ヲ授ル事妙ナル也文武ヘ人麿道ヲ奉授テ此ヨリ大臣古今貫之ヲ知テ

近衣ハ非南日ノ哥ヲ奉授也兆ルヲ能備之上授之
方トハ貫之ヘモ人丸ノ如ク自歌ヲ以テ一同之由
備之ニ依テ授花ノ歌ヲ奉授君答之承也付後
万葉集ハアリナカラ又撰ノ妙ナレハ自撰歌ノ白河法皇ト
之令之ツ処自筆新而仍一歌ノ五篇ト号シ習也

傳授歌之次第

五代 代々之儀

授後成和歌

龍田川紅葉乱而流めり

秋下 ワタラハニシキナカヤ絶ナン 読人不知

左注この哥ハある人ならのみかとの哥なりとなん申 文武天皇

多津田川紅葉ゝ流神南比乃

秋下 同 ミムロノ山ニ時雨フルラシ 又ハアスカ川モミチハナカル 此哥不注人丸哥 紀年文同

保延四年八月十五日　基俊

授定家和歌

結手乃石津久尓ゝ古留山乃井清

古今巻八離別哥 つらゆき アカテモ人ニ別ヌルカ

治承三年二月九日　釈阿

授為家和歌

佐保麻乃妻田山乃累迄秋菊

新古秋下巻五 カナ田ハカクラシ宿ハシラトモ 人丸

近歌松帆之浦

新勅撰 コヌ人ヲマツホノ浦ノ夕ナキニヤクヤモシホノ身モコカレツヽ 定家

貞應元年七月六日　定家

ガラス使用

授為氏卿

松帆乃浦餞 追加 永日乃未以志め俤入利ぬ乃歌

建長三年十二月十二日 為家

授為世和哥

永日乃未以之志め南波

弘安元年十二月廿八日 為氏

新勅撰巻三之夏哥
寛喜元年十一月女御入内屏風に
郭公さつきみなつき
大蔵卿為家

授頓阿和歌

前之歌

元應二年七月廿六日 為世

傳受之次第 十八

當流相續之事

紀貫之 助内侍 延長元年癸未授之

但馬 周知巳 山陰室 山陰息女

従延長至永保三百六十年

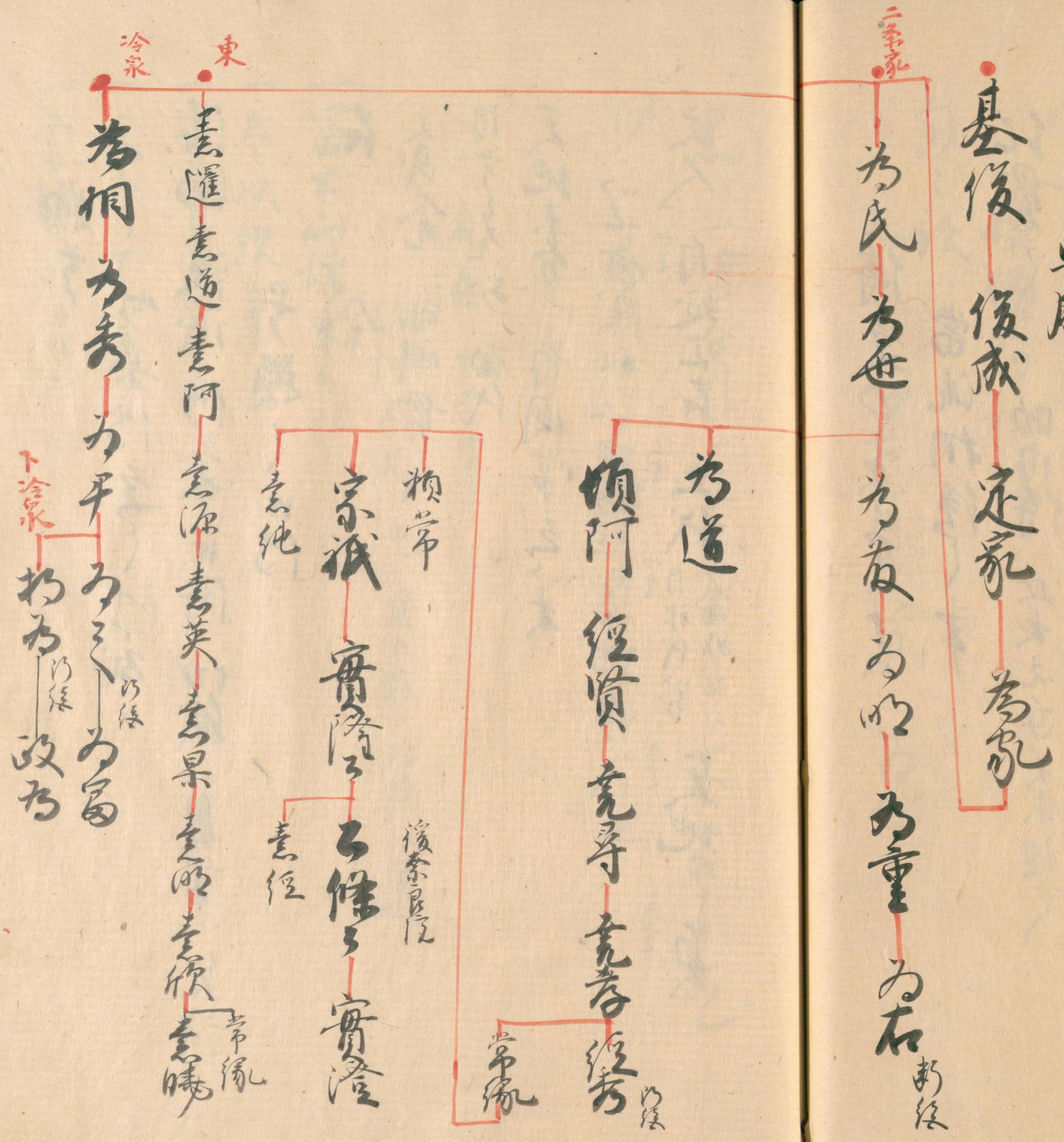
永保三癸未授金吾将軍也 書云 是ハ永保三年霜月五日夜以此事之次ごころさうらひしと きこえけるよし

基俊 於南円堂和歌道事祈誓之中依夢之告石清水八幡御事又有夢之告遂傳授書並家之口傳也

高記一冊 口傳書記一書 由仰作

高倚書
授阿古和哥
櫻花冨余氣良之毛
延長之年三月八日　貫之

血脈


二条家
基俊
俊成
定家
為家
為氏
為世
為藤
為明
為重
為右
断絶
為道
頓阿
経賢
堯尋
堯孝
経秀
同絶
常縁
東
素暹
素道
素阿
素源
素英
素杲
素明
素欣
素暁
常縁
頼常
宗祇
素純
實隆公
公條公
後奈良院
素経
實澄
冷泉家
為相
為秀
為尹
為之
同絶
為富
下冷泉家
持為
同絶
政為

類号　此集伝受之法式

清濁　読議　伝受　口傳　切紙　奥書　免許

号類之口伝

古　今

文武人丸　醍醐貫之

自宇多以前　當代

天地未分　自國常立以来

此世分ニ秘説有極位之口伝在之

一字 文人　二字 自延上古　三字 五代　四字 自神代以前（人王始）　五字 天地　六字 奥

黒ハ一切無分別之境界　一念之上ニ無念無想ナル所也

白ハ万物明白ニシテ見（ケン）聞（モン）覚（カク）知（チ）ノ理ハリ也

口決在之

流議　付茶事

流議不同　是ハ東カ家ノ切紙之内也

一冨士山煙事

一笑之以歌事古

一たましく　オハミニミ

一久みそて　沈

一雲林院　ウリン

一御国忌　ミコキ

一我身世にふるなかめ　霖雨也

一こふうれてこさ覧　池

一よる玉此未　非未ニアリ

一花の賀茂乃まつり　今

以上

祭事

賀茂祭歌事

此集肝心只在花桜の受口傳

長短不同事

短哥之事

古巻二十　夜居とし ゆきの短长

ミツヤフルサモノヤシロノヒメ小松

御代ヲトモ　春ハサハラシ

一説子孫ノ縁モ切之則為すくミニ不用之

万葉集ヲウツメ歌モ不似其辞是物コトニ申さて辞也

彼集ハ当ラ長哥ヲ短歌云ニ用フ歌ノ寸一字二哥

枝葉ノ如之依之ヒノ古今集短歌ヲ短歌ノ辞トス

長哥枝葉如之然之古今之長歌ヲ短歌ト

号類ス是甚深口傳不可漏脱也

聟古方

聟古方之事

情新　詞舊　心直　言艶（口傳ミ為家ヲ治長ニ互ニ接　意還切鐵也世異互連署略之）

再聟　二之

情新トハ風情ノ様ニ依テ心ノ新キリ九ノ為ノ器ニ従テサニシ

ゆタルカぬニ
新勅撰集巻四 秋上 定家
天の原おもへはかはる色もなし 秋コソ月ノ光ナリケレ
後撰集巻十 恋二 よみ人しらず
天河にもにやうし成しけり カメノハミノアリタノ比
此類なし
類ヲ數ヘ吟味セヨ 類ニ縁リハシミヽ又レハ類ニ餘情モ
不見エサメモセス ハシコミニ見ヘ又ハタケモメカリナヨケ
ナレト ハシコミラフトハ類シハニ深テ他變ナキヤ

作傳 三言

ハシ漢古風詞ヲ先達ニナラフヘシ ハシニ略リノ詞ヲ
スナシニ可詠 ハシ物ニ一カセテ和ヲ基トセヨ 惣ニハ
物ニ對ソ 事ナカルヘシ 是ヲ正トス
古今ノ序ニ うみくしうねを賢人いかゝゐくすんわるぬ
いにしへ乃代々のみかとゝ云ヘリ上古ノ辞ヘダメリ行
ナレニ臣ノ賢愚ヲ知食ス然ルニ詠和哥ヲ既道ノ
零落ト謂ツヘシ云々 秘事口傳

道 四言

百人一首 好色歌古今ノ序ニハアレ共秀歌ハ同シ也他
其實落テ華ヤ多分ニ傳之 二神ノ歌ト巻頭哥ト
同歌 天地未分ト二神ノ歌ト同ゝ

和 六言

序曰人世ニありて云為なんつアラハスニハ其ハアラハ也
口傳為沐浴ハ詠和哥 其哥不作曲節 眼前ヲ
不失ニ詠ヤ 一万物心ニ就ハ即詠歌又附ク一万物ヲ為也

附ニ又心一句物ニサカハサレ逆ハサレハ世ノ為ナル事アリ
竟ニ和ト云ヘル此心ヨリ源ヲ出ス哥ナルカ故ニ鬼神
感動ス

中　六義

一句ニ又ニ半清ノ一句ヨリ六義ヲ立ルニ依テ一句
文ト云ヘシ　アキラケキ詩ヲ述オノ々ニ亡ヒ脩人　右
目ニ諸ノ不浄ヲ見テ心ニ諸ノ不浄ヲ見ス耳鼻
舌身ニ同シ
此附清ク潔キ事アリ　教
諸ノ法ハ影ト形トノ如シ　持
清ク潔キ物ハカリソメニモ汚ルヘキ事ナシ　直

此ヲトラハ不可得　正
皆ヨリ成レル果トナレリ　今

誓ナハ使
誓古方　唯授一人

一情江新　其情ノ前ニ成ル義ニハ非ス其風情新ニシ
ニ施ニヤ假令常住ノ所愛モハラヒニツラヒテ人ニ去テ辞
置物懸絵ニ見ヨキホトニテ飾リ又レハアラス一所ニミナ
（孟子公孫丑章云　孟子曰伯夷非其君不事非其友不友不立於悪人之朝不与悪人言立於悪人之朝与悪人言如以朝衣朝冠坐於塗炭）
サル、セ（ノ如シ）（孟子ノ悪人）假実ニ侍シ求メタセハ異風呈辞
ノ境ニ入未来記モヤヨキ狂ニ風情新ニ成スレハ心モ自ラ
新ク成テ物コトニ明白也

一類　常寂　振凡　遍照　寺院　深奏文　（數々字　去口傳）

ガラス使用

三六秘　柿本　紀氏　躬恒　友則　小町　伊勢

兼輔　敏行　忠岑　興風　元輔　是則　兼盛

一無師述　ハシ信トスル所之出自ハ自覚ス開悟ニ擬也

一以舊歌為師　詞ヲ見習ニ風情ヲ分別ノ為也

一小金山ノ歌　号清角一切ノ歎有二角道作れ

画清褒券之緣　（有方円之口決）

一随分ノ作者ノ猶撰セルハ數寄テリテツテリタルニ又

ソレクノエカリニ作者ヲ比し

一巻ヶ以上古今日前之儀但袖ハ飾文花上古今日ノ差

別ヤ巻以ハ今年トノ世ニ叶ナリ也

一開書　附書シハノ関トメ不マ入其境

一風躰口傳歌

（古雑ラ下巻十八　読人不知）

八雲立（イツモ八重ガキツマゴメニ八重ガキツクルソノ八重ガキヲ）　伊九家介（我世ハヘナンスカハラヤフシミノサトノアレニソモヲシ）

（古巻九　羈旅歌）あかし石浦（ノ朝方ニ隠カクレ行舟ヲシソ思フ）　（古巻六冬歌　読人不知）梅能波奈（ソレトモミエス久方ノアマキル雪ノナヘテフレヽハ）

（新古巻五　秋下）左牡鹿の妻問（山ノ岡ヘナルワサ田ハカラシ霜ハ置トモ）　（千載巻四　秋上　俊成）夕去ハ野への秋風（身ニシミテウツラ鳴也フカ草ノサト）

（新勅撰巻十二　恋三）来ぬ人を松帆（ノ浦ノ夕ナキニヤクヤモシホノ身モコカレツヽ）　（新勅撰　為家）永日のりや紀志の縄（クリカヘシアカスカリラフ郭ヨカナ）

（人トリハ）三まこもやゝん玉津嶋（カスム入江ノモノ岬ノ　為氏）（建長二年詩歌ヲワカラ小アハレ入江上春月詩也）

（續拾撰巻一　春上）附ル三代家道撰集之自歌又入撰集佛神比方あや

一偽撰説之事　順徳院御抄ハ金銀ヲ鏤メタル撰也

（古巻　又秋下）定家口傳ニ偽撰之說也

假令さくら山比撰歌ヲ作ノ為方ニ成タル時月ノ咏ヲ見ヲ畫（ノ紅葉散ル（ミヨルカ）（ミヨトモテラス月影））

コソ不飽足ニ夜サヘミヨト照スハ同シクハノ深ニス（キツトヽ）之注

口說之

一唯授一人
詞康秀乃ゝ公業平 小町 黒主乃ゝ
以秀辞可詠平心 其餘ハ不習ものハ大事歴数ノ説（有之）

神道 超大極秘

神流事

阿那（一風） 宇礼志（二賦） 介陪屋（三比） 宇摩志（四興）
雄誉（右今） 仁（五雅） 安居奴（六頌）
六根 眼耳鼻舌身意 六境 色声香味觸法

六識 眼耳鼻舌身意 十八意界
合陰陽之二首三十一字也是則五句卅一字之作也
男子女ゝ詞之天地也陰陽也出入之息也故ニ阿吽之（二字）
已上四重
一 和之事 超大極秘
字妙 式一字一月擬テ又一日ト変ス天道ノ循環（ジユンクワン）無窮ニシテ恒（コウ）沙ノ如ナルハ風雅之又盡ルコトナシ
句妙 五句一首之中分テ五句是則五行五大五常五色五味五臓五躰五蘊五常五戒五智ナリ五トハ万法ノ数ヲ句ヲ出事ナリ
意妙 一首之意ハ妙之感動天地通和男女ナラ之事皆是之妙ゝ至極也

ガラス使用

始終妙（此風躰ハ神代ヨリ始テ末世ニ至テ大ニ盛ナル故ニ始終ト云）

重大事

陰陽二神天浮橋ノ下ニテ添ル其二ノ意ヲ羽ニ顕シ詞ヲ数ニ作テ夫婦ノ天地ト奇ニシテ天地ハ陰陽二神ノ霊躰也一年十二度ノ會ハ毎月晦也是式一字ノ処也

三神事

身足三足ハ他流ノ義也当流ニ而用ハ当社三神也表筒男中筒男底筒男是ヲ三タリト云道ヲ守リ衆生ノ祈ヲ成シ守リノ佛果ニ至ル此三德也

天照大神ハ穢ニ沼ノ時ヨレル神也是ヲ云ル貴人ハ神（ト云）是当社ノ別名也

極位　唯授一人

当社ハ日神ノ御異名也假令夜ハ通地底是底筒也東西ニ現ズル時中筒赤土也西乾ニ現坐時表ハ筒磐土也表底通名夜通表明日名赤人表日当名人磨皆是以日ノ名表也北方底通日ハ底土ハ名也東南ハ日ハ赤土ハ名也又音ハ通ノ形也表ハ乾也天也日ハ天ニ留リ坐ス故日当ハ表筒ノ一ノ名也

神遊神楽事

ガラス使用

取物神（不変性常住）寄託物（意識觸物表相）

弓（神代有之弓）杉（憶持）男力星事

岩戸（識塔）神通自在（性也）

ガラス使用

別 15
30